

平成20年度 科学研究費補助金（特別推進研究）
研究進捗評価結果

| | | | |
|-------|-----------------|------------------|---------------------------------|
| 研究課題名 | 細胞死の分子機構とその生理作用 | 研究代表者名 (所属・職) | 長田 重一（京都 大学・大学院医 学研究科・教授） |
|-------|-----------------|------------------|---------------------------------|

研究課題の総合的な評価

| 該当欄 | | 評価基準 |
|-----|----|--|
| ○ | A+ | 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる |
| | A | 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる |
| | B | 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である |
| | C | 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である |

評価意見

アポトーシス研究の世界的第一人者である研究代表者が、これまでの自らの研究成果に基づき、明確な方向性と目的を持って独創性の高い研究を展開している。具体的には、アポトーシスの分子機構とその生理作用、特に、マクロファージによるアポトーシス細胞貪食の分子機構の解明を主たる研究目的の1つとし、貪食作用に必須の細胞膜 phosphatidylserine 受容体である Tim-4 を発見するなど、インパクトの高い研究成果が次々と挙がっている。さらに、RhoA の活性化状態を FRET 技術を利用して可視化することにより、アポトーシス細胞貪食過程の生細胞イメージングにも成功しており、当初の研究目標を超える研究の進展が見られる。今後のさらなる研究の進展が大いに期待される。